

【令和3年度第1回農村振興施策検討委員会】

みやぎの地域資源保全活用支援事業について

- 1 令和2年度の実績について 【P1】
- 2 令和3年度の計画について 【P3】



【第7回みやぎのふるさと農^{のん}び里フォトコンテスト(R1)】

—宮城県中山間地域活性化推進協議会長賞「田植え準備中」(蔵王町)—

宮城県農政部農山漁村なりわい課

1. 令和2年度の実績~~(見込み)~~について【補正後 11,852 千円 (当初 16,000 千円)】

みやぎの地域資源保全活用支援事業（国事業名：ふるさと・水と土保全対策事業）は、中山間地域等の農地や土地改良施設の有する多面的機能の良好な発揮と地域住民活動の活性化を図るため、活動を推進する人材の育成や農地・施設の保全及び利活用の促進に対する支援を実施しているもの。

なお、令和2年度の実績~~(見込み)~~は以下のとおり。

(1) 基金運用見込み

(単位：千円)

	R1年度 実績	R2年度 実績 (見込)	増 減	対前年比
基金元本 (年度末)	678,797	673,482	▲5,315	99%
基金積立	0	0	—	—
基金戻し入れ	—	622	622	皆 増
基金取崩	7,478	5,937	▲1,541	79%
基金運用益 (※H29～R1 平均 5,770 千円)	5,837	4,657	▲1,180	80%

(2) 主な取り組み (事業費 10,566 千円)

① ふるさと水と土指導員・保全隊に対する補助

県内 11 の保全隊等の保全活動に対し補助金を交付

・事業費 1,940 千円

② 第8回みやぎのふるさと農美里^{のんびり}フォトコンテストの開催~~(別紙1)~~

農業農村の魅力を広く紹介するため、フォトコンテストを開催 (宮城県中山間地域活性化推進協議会、宮城県土地改良事業団体連合会と共催)

・事業費 132 千円

・募集期間 令和2年8月3日 (月) から12月28日 (月) まで実施

・審査日 令和3年2月9日 (火)

※応募状況 一般の部 104点 (前年度 97点)

中・高校生の部 6点 (前年度 22点)

合 計 110点 (前年度 119点)

③ ふるさと水と土指導員・保全隊研修会の中止

ふるさと水と土指導員等の交流を兼ねた研修会を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止を踏まえ、前年度に引き続き研修会を中止することにした。

なお、指導員及び県内市町村に対し、同様の理由で中止された「令和2年度ふるさと水と土基金全国研修会」資料を送付し、情報の共有を図ったもの。

④ 地域住民活動促進事業

・事業費 7,938千円

ア 地域資源等保全活用支援事業（事務所提案事業の実施）

・事業費 6,941千円（気仙沼1,650千円，北部5,291千円）

・気仙沼市赤岩・八瀬地域（事業実施主体：気仙沼地方振興事務所）

当該2地域は、農地や土地改良施設の維持管理に取り組んでいるが、施設の老朽化が進んでおり、改修が必要な施設もある。今後の保全・管理方法を検討するため、ワークショップを実施し、地域の合意形成を図るもの。

・大崎地域（1市4町）（事業実施主体：北部地方振興事務所）

大崎地域世界農業遺産の巧みな水管理システムを構成する水管理基盤において、施設の由来や歴史等の調査によりデータベース化を構築し、また、啓発資料を作成するもの。

イ 地域文化等継承活動支援事業

・事業費 997千円

・大崎市鳴子温泉鬼首地域（事業実施主体：農山漁村なりわい課）

農村コミュニティ活性化による支援を行うため、鬼首神楽活動の支援を行うため、ワークショップ等を開催した。

⑤ 国の事業実施計画における成果目標

・地域住民活動を通じた地域づくり支援 【目標2地区】⇒3地区実施

・ふるさと水と土指導員の育成（全国研修会参加者） 【目標3人】⇒0人

・第三者検討委員会の開催 【目標2回】⇒2回実施

2. 令和3年度の計画について

【当初予算 16,000 千円（前年当初 16,000 千円）】~~（別紙2）~~

令和3年度みやぎの地域資源保全活用支援事業（国事業名：ふるさと・水と土保全対策事業）を実施し，中山間地域等の農地や土地改良施設の有する多面的機能の良好な発揮と地域住民活動の活性化を図るため，活動を推進する人材の育成や農地・施設の保全及び利活用の促進に対する支援を実施するもの。

なお，令和3年度の計画は以下のとおり。

(1) 基金運用計画

(単位：千円)

	R2年度 実績 （見込）	R3年度 計画	増減	対前年比
基金元本（年度末）	673,482	661,488	▲11,994	98%
基金積立	0	0	—	—
基金戻し入れ	622	28	▲594	▲5%
基金取崩	5,937	12,022	6,085	202%
基金運用益 〔※H30～R2 平均 5,410 千円〕	4,657	3,977	▲680	85%

基金運用益は上表のとおりであるが，平成30年度～令和2年度（実績見込）の平均運用益額は，5,410千円である。令和3年度の運用益は，減少が見込まれており，平均運用益額に比べ1,433千円下回る見込み。

(2) 主な取り組み（事業費16,000千円）

① ふるさと水と土指導員・保全隊に対する補助

県内11と新規2見込の保全隊等の保全活動に対し補助金を交付予定（今後要望量調査を実施）

・事業費 2,740千円

② 第9回みやぎのふるさと農^{のんびり}美里フォトコンテストの開催

農業農村の魅力を広く紹介することを目的にフォトコンテストを開催予定（宮城県中山間地域活性化推進協議会，宮城県土地改良事業団体連合会と共催）

・事業費 300千円

- ③ ふるさと水と土指導員・保全隊研修会の開催
ふるさと水と土指導員等の交流を兼ねた研修会を開催予定
・事業費 596千円
- ④ 地域住民活動促進事業
・事業費 9,300千円
- ア 地域資源等保全活用支援事業（事務所提案事業の実施）
地域資源の保全活用について，各地域の特徴ある保全・活用を図るため，各地方振興事務所からの提案事業を実施するもの。
・事業費 7,900千円
~~・気仙沼市赤岩・八瀬地域（事業実施主体：気仙沼地方振興事務所）~~
・大崎地域（1市4町）（事業実施主体：北部地方振興事務所）
・新規地域見込み（今後要望量調査を実施）
- イ 地域文化等継承活動支援事業
農耕儀礼や民族芸能，郷土食等の継承などによる地域住民活動の活性化を図る活動等の支援事業を実施するもの。
・事業費 1,400千円
・大崎市鳴子温泉鬼首地域（事業実施主体：農山漁村なりわい課）
- ⑤ 地域住民活動の人材育成（宮城県農業大学校との連携事業）
宮城県農業大学校と連携し，大崎地域世界農業遺産の巧みな水管理システムの維持継承に向けた人材育成を図るもの。（別紙のとおり）
・事業費 575千円
- ⑥ 国の事業実施計画における成果目標
・地域住民活動を通じた地域づくり支援 【目標2地区】
・ふるさと水と土指導員の育成（全国研修会参加者） 【目標3人】
・第三者検討委員会の開催 【目標2回】

みやぎの地域資源保全活用支援事業概要（令和3年度）

事業目的

中山間地域等は、過疎化、高齢化等の著しい進行により、地域の活力が低下しつつある。農地や土地改良施設等の地域資源の利活用を基本とし、地域住民活動の多様な展開を促進することにより地域の活性化を図り、地域住民活動を推進する人材の育成、地域資源の利活用及び保全整備等を促進するものである。

【基金】・H5～9年度基金造成 660,000千円（拠出割合：国1/3、県2/3）
・R2年度末基金残高 673,482千円（見込み）

【根拠】・（国）中山間ふるさと・水と土保全対策事業実施要綱
・（国）中山間ふるさと・水と土保全対策事業実施要領

県要綱・要領等

- ・中山間地域等農村活性化基金条例（H31,3改正）
- ・みやぎの地域資源保全活用支援事業実施要綱（R2.4.1施行）
- ・みやぎの地域資源保全活用支援事業補助金交付要綱（R2.4.1施行）

事業内容

予算額：16,000千円（内7,900千円事務所提案枠）

（1）地域資源に係る調査研究事業【8,742千円】

地域住民活動による土地改良施設や農地等の維持、補修、保全などの農山漁村振興に関わる調査や資源活用の検討を支援

（2）ふるさと・水と土指導員等研修事業【2,888千円】

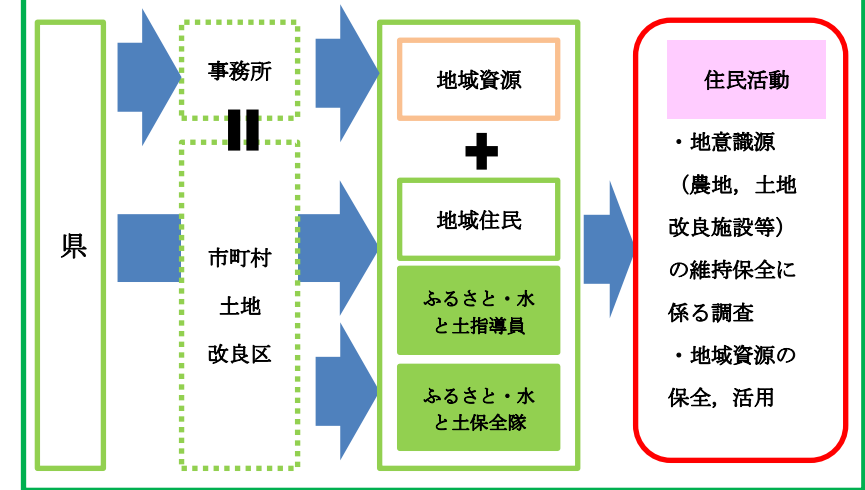
地域住民活動の活性化を図る指導員やリーダーの人材育成・確保

（3）地域資源の保全活用推進事業【4,370千円】

地域資源を活用した地域住民活動を実践する組織の構想化、設立支援及び活動への支援

- ①農村振興施策検討委員会の開催
- ②歴史的価値がある施設や環境配慮、親水施設等の地域住民が参画した保全活動等を支援
- ③農耕儀礼や民族芸能、郷土食等の継承などによる農村コミュニティの維持向上を図る活動等を支援

事業の流れ



地域資源とは

自然環境、特産物、伝統的技術、文化財、歴史的・文化的施設、人材、コミュニティ等

事業効果

- ・歴史や文化、環境、生態系、景観など保全すべき資源調査による地域特有の資源が再発見され、6次産業化などの新たな起業が創設される。
- ・地域住民活動による農村に伝わる伝統文化及び伝統食の継承等により、コミュニティの維持及び農村地域の活性化が図られる。

宮城県農業大学校との連携事業について

宮城県農業大学校と連携し、大崎地域世界農業遺産の巧みな水管理システムの維持継承に向けた人材育成を推進するもの。

- ① 1年次【全学部（水田経営学部，園芸学部，畜産学部，アグリビジネス学部）の学生 50 人程度を対象 2 コマ】
- ・実施日：令和 3 年 5 月 7 日（金）
 - ・内 容：「農学基礎実習」の一環として，世界農業遺産「大崎耕土の水管理システム」について，宮城大学事業構想学群郷古教授を講師に招き，校外研修及び講義を実施。校外研修は，岩出山地域の大堰頭首工から内川を徒歩で見学し，その後世界農業遺産の講義を行ったもの。

～生徒の感想：アグリビジネス学部 1 年（聖ドミニコ学院高校出身）～

巧みな水管理システムを藩や地方自治体が統治してきたのではなく，農家の地縁的な結び付きの組織「契約講」が主導してきたということに一番驚きがありました。地形が原因で発生する洪水や渇水，季節風による冷害への解決策として生まれた流域全体を見据えた重要な資源を分け合うという精神は，現在も地域の農業と生活を支えているのだと思いました。国際目標である SDGS に関するアクションもあり，目標 6 に当てはまるものだと知り，日々の生活で安全な水を享受していることを改めて考える良い機会でした。

- ② 2年次【水田経営学部の学生 15 人程度を対象 2 コマ】
- ・実施日：令和 3 年 6 月 2 1 日（月）（予定日）
 - ・内 容：「キャリア形成プログラム」の一環として，大崎市世界農業遺産推進課の職員を講師に招き，生き物調査を実施予定。また，調査意義や役割及び結果をまとめ，ほ場分析を行うもの。